

現代経済学科のゼミナール

Department of Economics SEMINAR

進化経済学から見えてくる 経済社会と経済理論

吉田 雅明 教授

進化経済学のゼミナールでは、制約された予算下において最適選択を行うという意味での合理的主体や市場均衡といった標準的な経済学の想定を離れ、経済社会を有限能力主体が不可逆的時間下で相互作用を展開するシステムとして捉え、その理論や実践方法を扱っています。そこでは、皆に共有された行動パターンとしての「制度」が重要になってくるのですが、1つの国全体に根づく大規模な制度としての「貨幣」とはどういうものか、R.WreyらによるMMTのテキストなどを活用しながら検討しています。ずいぶん風変わりなジャンルだとは思いますが、こういった分野も学ぶことができるという多様性も現代経済学科の魅力の一つだと私は考えています。

様々な経済学を 根っこから考える楽しさ

3年 土田 健太郎 さん

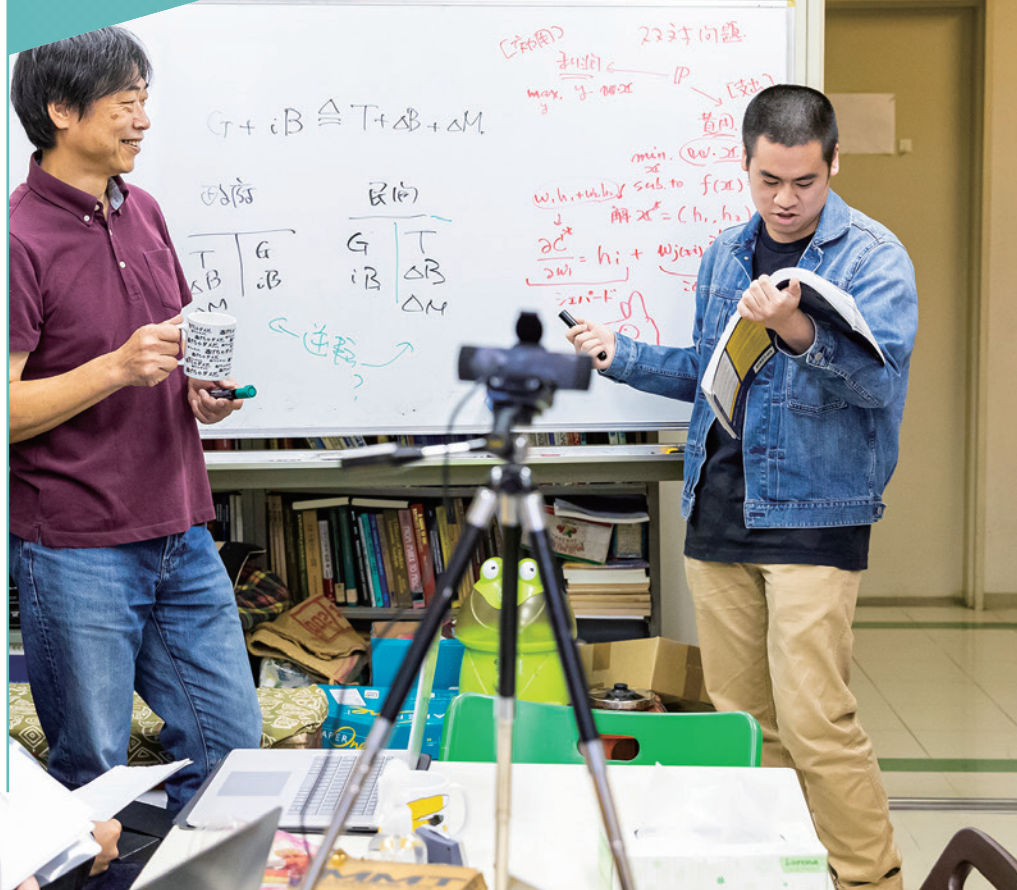
吉田先生のゼミナールでは、「経済を理解するための道具」としての経済学に焦点を当て、主流とされる経済学とは少し異なった分野について学んでいます。どちらかというと「異端」の経済学といえると思います。しかし、その「異端」の経済学を学ぶことによって、主流の経済学の問題点や経済学という学問の多様性についても認識することができます。このゼミナールでの学びを通して、既存の主流経済学をただ無批判に受け入れるのではなく、「異端」の経済学と照らし合わせ、双方の問題点を理解することにより、経済学が世の中の経済を理解するためのより良い道具になるにはどうすればよいかを考え、自分の意見を持つことができるようになります。



標準的な経済学の想定ではなく、経済社会をシステムとして捉えることでその理論や実践方法を扱うゼミナール。学生からは異端の経済学との声も。大規模な制度として「貨幣」とはどういうものか検討している。



吉田 雅明ゼミナール Yoshida Masaaki SEMINAR



1

配信しなかったグループの購入金額の常に低い意であるによる効果であると考えられる



Chin Shoji SEMINAR 陳 ショウジゼミナール

陳ゼミナールではプログラミング言語を駆使してデータ分析を行い、ビッグデータ時代の計量経済学と因果推論の深い理解を目指している。データサイエンスを核にした研究に興味ある方は是非。



データサイエンスを駆使した 経済学の新境地

陳 ショウジ 准教授

私のゼミナールでは、ビッグデータ時代の「計量経済学」と「因果推論」の深い理解を目指します。「R」や「Python」といったプログラミング言語を駆使することで、データ分析の実践力を養成しています。これまで、プレゼンテーション能力と論理的な思考力を磨きながら、社会実装に貢献する研究を展開してきました。全学科対象で、経済学におけるデータサイエンスを核とした実証研究の世界を体験しましょう。

社会における様々な事象を 統計分析する

3年 関森 雅人 さん

陳ショウジ先生のゼミナールでは「R言語」というデータ分析や統計に優れたプログラミング言語を使用しています。その言語を駆使することで、計量経済学の基礎から応用まで幅広く学べます。扱うデータ分析のテーマは、過去の株価の変動率から将来の株価の変動率を予測することや、広告媒体別に売り上げの効果を分析するなど、興味深いものばかりです。プログラミングを扱うゼミナールにも関わらず、所属学生の多くは未経験からのスタートでしたが、互いに助け合うことでR言語を身につけられました。また、統計に関する書籍を取り上げたプレゼンテーション演習も定期的に行っています。プログラミング言語を身につけ、演習を通して統計学の知識とプレゼンテーション能力を養うことができるため、今後需要が高まっていくといわれている「データサイエンティスト」を目指すには、ぴったりのゼミナールです。

2

現代経済学科のゼミナール

Department of Economics SEMINAR